



つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和5年5月26日
つばさだより 第2号

変化の4～6月。頑張っている姿を整理、想像して。互いに寄り添って。

新年度がスタートして約1ヶ月が過ぎました。子供も大人も変化の時間を過ごしています。ワクワク楽しく過ごしている人。もんもんと我慢して過ごしている人。なんだかよくわからないまま気が付けば日々の荒波に乗っている人等々。いろんな4月からの時間を過ごしていると思います。学校ではいろいろな形はあれど、子供たちから溢れるキラキラエネルギーがほとばしっていた一ヶ月でした。この日々は1日平均6時間。週5日。定時に起きてランドセルを背負って学校に行き、未知の体験の中から新しい発見や学びを得る。ものすごい量とスピードで様々なことを吸収していく毎日の始まりでした。ただ、輝くエネルギーをもつ子供(大人)でも日々の生活は微妙なバランスによって成り立っているものでもあります。毎日の天候、気圧。意識しないルーティン。何気ない友達との会話。教室での空気。楽しみにしているゲームやテレビ。お家での晩御飯や朝御飯。色々な物事のバランスを意識、無意識化の中で調整して日々は続いています。そして何気ない1日がともすれば奇跡的に成り立っていることもあるのだと思います。そんな変化が続く季節の中、「子供も大人も互いに頑張っている姿、できていることに意識を向けて寄り添って、励まし合って生活していきましょう!」と双方の立場にエールを送って6月に進んでいければと思います。

ゆっくり気が付いていく「つばさ」での学び。「自分は何を学ぶのだろう。」

連休も過ぎ、本格的につばさ教室での指導も始まっています。個別指導、小集団指導の中で今年の目標等にも話が及ぶことがあります。子供たちの実態に応じながら一緒に考えていくことの一つとして「自分」がつばさの中で何を学んでいくかというものです。もちろん低学年にはまだまだ難しいことですし、これから一緒に探していくものでもあります。ただ、子供たちには「自分」なりの意識をもっていくことができるようになればいいなと日々考えています。つばさでの学びが自分の何につながっていくのか。人によって様々ではありますが、「自分自身と向かい合う時間」ということは共通していると思います。自分の中にある得意、苦手、楽しい、緊張、不安、怒り、迷い、心地よい。つばさ教室の中では、そんな自分の中にあるものが自分の中で絡まっている子もいれば、少しずつなんとなく、ぼんやり見えてきている子もいると感じます。人は自分に少しずつ気が付いていくことで周りのことも見えてくるし、理解できることが増えてきますね。でも、どうせ知るなら自分の良いところにもたくさん気が付きたいものです。指導を通して子供たちが自分の「自信」も見付けられる。そんなことを目指していきたいと思います。

*先日の保護会で聖ヶ丘小における「つばさ教室」を知っていくための資料を配布しました。同様の資料を同封いたします。ご確認ください。